

1 概要（10月22日-23日 於：東京都内）

- ウクライナ地雷対策を後押しするため、2023年にクロアチア、2024年にスイスがそれぞれ主催。日本は、3回目となる本年の会議を主催し、茂木外務大臣は開会セッションにおいてスピーチを実施。
- 会議には、計75の国・国際機関の代表のほか、ビジネス関係者・NGO・ウクライナ地雷対策事業者等を含め計約600名が参加。
- その他、サイドイベントや日ウクライナ企業等によるブース展示を実施。



茂木外務大臣による開会スピーチ

2 会議の成果

- 全体テーマ「**復興に向けた加速**」のもと、主に①人②技術③ネクサス（地雷除去から復旧・復興への円滑な移行）を我が国主導で議論。
- **成果文書を発表**し、ウクライナにおける今後の地雷対策のために重要な下記の**共通認識及び今後の方向性を確認**。

（成果文書の主な内容）

- ①人：専門家の育成・能力構築、社会の幅広い主体の参画の促進、地雷被害地域・被害者等への包括的な支援
 - ②技術：研究・開発のための投資促進、デジタル化の地雷対策への活用、国際・各国基準に沿った地雷対策の実施
 - ③ネクサス：**地雷対策が復興の出発点であるとの認識**の下、地雷除去から復興・開発への早期・円滑な移行を促進。復興における民間セクターの関与と官民連携の促進。
- その他：継続的な取組を支えるための革新的資金調達メカニズムを含む多様な資金源を動員。政府、国際機関、民間セクター、市民社会を含む全てのパートナーが、ウクライナの復旧・復興に向けた前進を加速化させることを確認。来年のUMAC2026はEUが主催することを歓迎。

- 日本の取組として、**地雷対策加速化のための我が国の支援方針を示した「ウクライナ地雷対策イニシアティブ」を発表**。

- ①「人材育成」と「技術」の向上に繋がる能力強化支援を推進。
- ②社会経済活性化に資する支援や、地雷対策と復旧・復興プロセスの触媒となる支援を推進。（安全な国土への回帰や住民の帰還、産業振興、医療福祉・社会的包摂等）
- ③ウクライナ地雷対策を支援する国際ネットワークの多角化、重層化を先導。



参加国等による集合写真



サイドイベント



ブース展示